

健康講座

抜歯について

尾北歯科医師会岩倉地区会 浜島 悟

抜歯することになったらどうしますか。実はほとんどの人が一生のうちには一度は抜歯を経験します。

では、どんな場合に抜歯するのでしょうか。

口の中にはさまざまな病気があり、それが原因でそこに生えている歯を抜く場合、また歯肉の中に埋まったままの歯も抜くことがあります。それは、その歯を残すことでさらに悪化する場合、あるいは将来に弊害を起こす可能性が高い場合に決断されます。

ここでは、大きく4つに分けて言及しましょう。

①虫歯が歯茎の下まで深く進行した場合

歯茎の下まで虫歯が進行していると、虫歯の部分を削っても、しっかり詰めることができません。

②歯根の先に大きな膿の袋ができた場合

虫歯を放置しておくと神経が死んでしまい、さらに根の先に炎症が起き、膿の袋（歯根膿瘍・嚢胞）ができてしまいます。これが大きくなるとひどい炎症が起きるので、歯を抜いて、このフクロも取らなければなりません。

③歯周病が悪化し、歯のぐらつきが著しい場合

歯周病が進行すると、歯茎が退縮し、歯が長く見えてきます。このような状態では歯を支える骨が吸収されてしまい、グラグラなのでしっかりと物を噛むことができません。また、炎症を繰り返すことになるので抜くことになります。

④正常に生えない親知らず

きちんと生えていない親知らずは将来を考えて抜歯することが賢明です。まず親知らずについて説明しましょう。

親知らずは「智歯」とも呼ばれ、18歳頃に生えてきます。現代人は顎が小さくなっており、親知らずの生えるスペースが少なく、ほとんどがちゃんと生えることができません。多くは骨の中に埋まったままであったり、生えても前の歯にひっかかって傾いたままだったりします。そのままにしておくとどういったことが起こり得るのか、次をご覧ください。

★埋まったまま

すき間から汚れが入り込み歯周病のように細菌がどんどん溜まり、ひどい痛みと腫れが起こります。埋まった位置によっては、顎をぶつけた時などに顎骨を骨折させてしまうこともあります。

★前の歯に当たっている

前の歯を押して歯の位置を変えてしまいます。

★一部だけ出ている

歯ブラシが当てにくく、食べかすも溜まりやすいので虫歯になりやすく、親知らずと接している前の歯も虫歯になってしまいます。

このように、さまざまな状況によって抜歯という選択がなされます。ご自分の歯のことをきちんと理解するためにも歯科への定期受診をお勧めします。